第2次恵那市総合計画地域計画

自治区名	武並地域自治区
------	---------

【地域の現状】

武並町は恵那市の中でも、ふたつしかないJRの駅のひとつを擁し、国道19号線・418号線などの主要幹線道路が走る交通の要衝ともいえる地域です。また近い将来、瑞浪恵那道路やリニア中央新幹線地上部が建設される計画があり、大きな変化が起こる可能性を持った地域でもあります。

工業団地「恵那テクノパーク」を擁し、また新たに「恵那西工業団地」の開発事業も計画されている比較的恵まれた地域ではありますが、それでも人口減少・高齢化の波は着実に押し寄せており、将来を見据えたビジョンを明確に示し行動しないと地域の衰退は避けられないのが現実と考えています。

古き歴史の道「中山道」と最新鋭の交通手段「リニア新幹線」が同居する町・武並町。若い力へのシフトも踏まえ、さらに住みやすい町を目指します。

【キャッチフレーズ】

「住めば好きになるまち、たけなみ」

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

交通アクセス・自然環境に恵まれた武並町は恵那市内の中でも、住宅地として発展しています。現状と今後の瑞浪恵那道路の計画等の予測される環境変化を踏まえて武並町は「住環境重視の町づくり」を推進、人口減少を抑止し、地域を活性化する交流人口の増加を目指します。

また子供を持つ親が安心して働き続けるための通年型学童保育、地域の子供たちやお年寄りが安心して暮らせる、地域が一体となった見守り型福祉活動や支え愛の会を中心とした互助活動を推進し、住民一人一人やさしさ、おもいやりを持って住み続けたいと思い、他市町村の住民も住んでみたいと思えるような町づくりを進めます。

JR武並駅や主要幹線道路を擁する武並町は、他の市町村で働く人々の居住地としても便利な町。その優位性を活かし、恵那市の人口増加モデル地域となるべく、地域でできる住みやすい環境づくりを住民自らが考え、実践していきます。

また若い世代が町づくりに参加できる環境、住民が自立した地域活動ができる環境づくりを考えていきます。

【計画の柱(基本目標)】

1. 地域が見守る福祉のまち

特定の人が福祉活動を行うのではなく、すべての住民が自然体で、子供や高齢者・体に不自由のある方を守る「思いやりのある」町づくりを目指します。

2. 人が行き交う交流のまち

交通アクセスのよさを前面に押し出し、県下最大級のスケートリンク「クリスタルパーク恵那スケート場」や歴史的観光資源「中山道」などを核に、人の行き交う活気ある町づくりを推進します。

3. 活気あふれる自立のまち

住民自らが考え、行動する地域自治の精神を強く意識し、財源の確保・経済的自立も踏まえた組織・体制作りを進めます。

【基本施策】

計画の柱1：地域が見守る福祉のまち

(1) 施策の項目（安心して子供が育てられるまち）

子供たちが学校以外でも安心して生活できる環境の整備を考えます。
登下校の際の見守りだけではなく、親や地域住民の目の届く安全な遊び場や公園の整備、働くお母さん達のための通年型学童保育を推進します。

(2) 施策の項目（高齢者や体の不自由な方に優しいまち）

住民の高齢化に伴う一人暮らしの方や高齢者世帯の増加に対応し、配食等を活用した見守りの拡大や、自動車の運転ができない方や公共交通機関が不便な地域を対象にした移送のサービスを検討していきます。

(3) 施策の項目（笑顔で住み続けられるまち）

自然や人を大切にし、地域・学校・住民団体が一体となり、明るく健康に生活できる地域づくりを考えます。

計画の柱2：人が行き交う交流のまち

(1) 施策の項目（観光資源の有効活用）

中山道を中心とした地域資源を有効に活かし、歩いて楽しむ観光を提案していきます。特に藤地区には美しい農村風景があり、その保全も含めて有効な活用方法を検討していきます。

(2) 施策の項目（人口減少の抑止）

JR 武並駅の利便性や工業団地などの職場環境のある地域としての特色を活かしたまちづくりを検討および空き家の活用、人柄、自然など地域の特徴をアピールしていきます。

(3) 施策の項目（武並駅およびその周辺の有効活用）

月ぎめ駐車場だけではなく、他の町村周辺住民が駅を利用しやすくなるような一時駐車場の整備などを検討します。またJRを利用した交流イベントの推進を図ります。

計画の柱3：活気あふれる自立のまち

(1) 施策の項目（地域特産品の研究・開発）

地域特産品による地域おこしにより地域住民のやりがいを創生するとともに、遊休施設を利用した加工施設・販売施設の設置も検討し、六次産業化についても研究を進めていきます。

(2) 施策の項目（地域活動組織の改編）

地域振興やイベント開催などに若者の自由な発想が活かされる組織へと従来の組織から改編を推進していきます。

(3) 施策の項目（イベントの発信）

規模の大小に関わらず、数多くのイベントを実施することで地域の活性化を図ります。特にクリスタルパーク恵那スケート場及びその周辺を活用したイベントを優先的に検討していきます。

【地域間連携での取り組み】

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆三郷 ☆武並	計画の柱 地域でともに支えあうまち 施策の項目 地域で支えあうまちづくり 計画の柱 地域が見守る福祉のまち 施策の項目 高齢者や体が不自由な方に優しいまち
取り組み内容(概念)	
◎(見出し) 住みなれた地域で安心して暮らし続けられる (概要) 高齢者や体の不自由な方、妊婦など交通弱者の日常生活における移動手段の確保や公共交通空白地域の解消。生活必需品を入手するための買物支援などに取り組みます。両地域が連携することにより、効率的で利用者にとって魅力のあるサービスが提供できます。	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆三郷 ☆武並	計画の柱 生き活きと住み続けたいまち 施策の項目 地域の自然や景観を活かした観光振興と地域ブランドの発掘 計画の柱 人が行き交う交流のまち 施策の項目 地域資源の活用
取り組み内容(概念)	
◎(見出し) 農村景観や地域資源を活かしたおもてなし (概要) 自然や景観などを求めて都会から農村を訪れる人達の疲れを癒し、心と体をリフレッシュさせる環境づくりに取り組みます。両地域が連携して、賑わいのあるまちづくりを推進します。	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆三郷町 ☆武並町	計画の柱 生き活きと住み続けたいまち 施策の項目 健康づくりの推進 計画の柱 地域が見守る福祉のまち 施策の項目 笑顔で住み続けられるまち
取り組み内容(概念)	
◎(見出し) ここに住んでよかったと思えるまちづくり (概要) 赤ちゃんからお年寄りまで、だれもが健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。両地域が連携して健康づくりやふれあいを楽しめるようなイベント等を開催することにより、魅力ある生活圏を創ります。	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆笠置町 ☆武並町	計画の柱 笠置のよさをいつまでも伝え続けられるまちづくり 施策の項目 森林・農地の景観保全 計画の柱 人が行き交う交流のまち 施策の項目 観光資源の活用
取り組み内容(概念)	
◎(見出し)川を活かした景観作り (概要) 両地区を流れる木曾川の対岸を活用した新しい景観づくりを推進します。今ある自然景観だけではなく、人の手による観光資源となる景観作りを両地区で検討し、交流人口の増加を目指します。	

【全市的な共通課題への取り組み提案】

提案事項	
分野	内 容
生活環境 人口減少	<p>武並駅周辺（特に南側駐車場）およびアクセス道路の整備</p> <p>恵那市は、位置的に十分に名古屋を通勤圏に見込める地域であり、また自然豊かな居住環境を持っています。</p> <p>人口減少抑止策のひとつでもある『地域に企業を誘致する』施策に加え『通勤環境を整える』施策を取り入れることにより「職業選択肢の多い名古屋で仕事をし、環境の良い恵那に住む」という新しいライフスタイルを推進できます。</p> <p>今や一人に1台、自家用車を所有する時代です。パークアンドライドを促進する環境は整っており JR 武並駅周辺（特に南側）を整備することは武並町や三郷町を『恵那市の西の玄関口』として発展させる可能性を持っています。</p> <p>例えば、計画中の「瑞浪恵那道路」や「国道418号線」から武並駅へのアクセス（恵南地域や笠周地域からの名古屋への通勤）が容易になれば、地域の若者の職業選択による人口流出の抑止にもなります。通勤便利な場所と言うことになれば他市町村からの移住促進にもなります。</p> <p>また JR 武並駅からクリスタルパーク恵那スケート場へのアクセスを整備し、商業施設誘致も含めた開発計画を立てることにより既存施設を利用した交流人口の増加が見込まれ、それらに伴い周辺の開発も期待できます。</p>